


## 射影行列の冪等性と対称性

「一度射影した点をもう一度射影しても変化しない」という性質は、次のような数式として表現できる

ref: 線形代数セミナー  
p7

 射影行列の冪等性 射影行列  $P_{\mathcal{U}}$  は冪等である


$$P_{\mathcal{U}}^2 = P_{\mathcal{U}}$$

 証明

$$\begin{aligned} P_{\mathcal{U}}^2 &= \left( \sum_{i=1}^r \mathbf{u}_i \mathbf{u}_i^{\top} \right) \left( \sum_{j=1}^r \mathbf{u}_j \mathbf{u}_j^{\top} \right) \\ &= \sum_{i=1}^r \sum_{j=1}^r \mathbf{u}_i \mathbf{u}_i^{\top} \mathbf{u}_j \mathbf{u}_j^{\top} \\ &= \sum_{i=1}^r \sum_{j=1}^r \mathbf{u}_i (\mathbf{u}_i^{\top} \mathbf{u}_j) \mathbf{u}_j^{\top} \\ &= \sum_{i=1}^r \sum_{j=1}^r \delta_{ij} \mathbf{u}_i \mathbf{u}_j^{\top} \end{aligned}$$

ここで、 $\delta_{ij}$  を含むことから、 $i = j$  の場合のみ項が残り、

$$P_{\mathcal{U}}^2 = \sum_{i=1}^r \mathbf{u}_i \mathbf{u}_i^{\top} = P_{\mathcal{U}}$$

が得られる 

この  $P_{\mathcal{U}}^2 = P_{\mathcal{U}}$  という式は、一般の（必ずしも直交射影でない）射影の定義として用いられる

次の性質は、射影が直交射影であることを示すものである



射影行列の対称性 射影行列  $P_U$  は、対称行列である

$$P_U^\top = P_U$$



証明

$$P_U^\top = \left( \sum_{i=1}^r \mathbf{u}_i \mathbf{u}_i^\top \right)^\top$$

和の転置は転置の和であることを用いて、

$$P_U^\top = \sum_{i=1}^r (\mathbf{u}_i \mathbf{u}_i^\top)^\top$$

また、積の転置は転置の積だが、積の順序が入れ替わることに注意して、

$$P_U^\top = \sum_{i=1}^r (\mathbf{u}_i^\top)^\top \mathbf{u}_i^\top$$

転置の転置をとると元に戻るので、

$$P_U^\top = \sum_{i=1}^r \mathbf{u}_i \mathbf{u}_i^\top = P_U$$

が得られる



射影行列は冪等かつ対称であるが、その逆も成り立つ



対称性と冪等性による射影行列の特徴づけ 対称かつ冪等な行列は、ある部分空間への射影行列となる

## 証明

$n$  次対称行列  $P$  は、 $n$  個の実数の固有値  $\lambda_1, \dots, \lambda_n$  を持つ  
これらに属する固有ベクトルを  $\mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_n$  とすると、 $\mathbf{u}_i$  は互いに直交する

固有値と固有ベクトルの関係から、

$$P\mathbf{u}_i = \lambda_i\mathbf{u}_i$$

両辺に左から  $P$  をかけると、

$$\begin{aligned} P^2\mathbf{u}_i &= \lambda_i P\mathbf{u}_i = \lambda_i \cdot \lambda_i\mathbf{u}_i = \lambda_i^2\mathbf{u}_i \\ \therefore P^2\mathbf{u}_i &= \lambda_i^2\mathbf{u}_i \end{aligned}$$

ここで、 $P$  は冪等なので、 $P^2 = P$  が成り立つ

$$P^2\mathbf{u}_i = P\mathbf{u}_i = \lambda_i\mathbf{u}_i$$

これを用いると、

$$\lambda_i\mathbf{u}_i = \lambda_i^2\mathbf{u}_i$$

固有ベクトル  $\mathbf{u}_i$  は零ベクトルではないので、

$$\lambda_i = \lambda_i^2$$

よって、

$$\begin{aligned} \lambda_i^2 - \lambda_i &= 0 \\ \lambda_i(\lambda_i - 1) &= 0 \\ \lambda_i &= 0, 1 \end{aligned}$$

すなわち、固有値は 0 か 1 のいずれかである

そこで、

$$\begin{aligned} \lambda_1 &= \dots = \lambda_r = 1 \\ \lambda_{r+1} &= \dots = \lambda_n = 0 \end{aligned}$$

とおくと、

$$P\mathbf{u}_i = \begin{cases} \mathbf{u}_i & (i = 1, \dots, r) \\ 0 & (i = r + 1, \dots, n) \end{cases}$$

よって、 $P$  は  $\{\boldsymbol{u}_1, \dots, \boldsymbol{u}_r\}$  の張る部分空間への射影行列である

